

「川に学ぶ体験活動協議会」活動紹介

川に学ぶ体験活動協議会(RAC) 事務局長 齊藤 隆

川に学ぶ体験活動協議会(略称RAC)は、「川の指導者」の養成や様々な活動を通じて川と人々との関係をより深いものにしていくことを目的として、平成12年9月に設立され、平成16年12月現在、131団体が加入しています。

今年度の活動を、いくつかポイントを絞って詳しくご紹介いたします。

【第3回RACフォーラム】

川の指導者は、特に子どもを楽しく安全に水辺へ誘うことを期待されていますが、指導者として活躍するためには、安全の確保のほか、指導技術や人間性、自然に関する知識、プログラムの展開方法など、様々な要素が求められています。また、継続的にプログラムを展開していくためには経営的な能力も必要となります。今回で3回目となるRACフォーラムは、多摩川源流域の山梨県小菅村にて、源流の文化を最大限取り入れ、3月5日、6日の2日間(エクスカーションは4日に実施)にかけて開催しました。

[3月5日(土)]

○全体会

小菅村長の歓迎挨拶、国土交通省河川局河川環境課森専門官の来賓挨拶から始まり、中村文明さんによる源流域での活動が紹介された。



○ワークショップA~D/夜なべ談義

そのものずばり「飯の食べる指導者像」など、現場指導者にとって切実なテーマも取り上げていた。



[3月6日(日)]

○ワークショップE~H

「悪天候時のプログラム」のワークショップでは、野外活動では悪天候はつきもので、最初から屋内でのプログラムを想定した計画作りをすることの大切さを改めて認識。「10年後のRAC」のワークショップでは、現在のRACの抱える収入構造の課題にも話しが及び、健全な組織運営をしていくために、自主財源を確保する方法が検討された。

参加者の中に、講師的な人も大勢混じるなど、参加者のレベルも非常に高いフォーラムだった為に、参加者同士の情報交換からも非常に多くの成果が上がったという意見や、アンケート調査からは一般参加者の6割の人から来年も参加したいという結果が得られた。

【子ども向け水辺安全教材DVD開発】

本教材はともすると怖くて硬くなりがちな水辺の安全についての話しを、関係者の協力により、さまざまなキャラクターが滑稽に演じることで、子どもたちの注意を引き付けるように工夫して構成しています。会員以外の方にも配布(提供価格2,100円)予定です。子どもを川に連れ出すとき等、様々な場面で是非活用してください。

<今後へ向けて>

当協議会は立ち上がりからの5年間、財団法人河川環境管理財団の中に事務所を設置し、川の指導者養成事業を中心に「川に学ぶ社会形成へ向け」た様々な取組みを行ってきました。今年の7月からは、自主自立を目指して財団から事務所を独立させて活動することになります。関係者の方々には今まで以上に指導ご協力をお願いします。

《川に学ぶ体験活動協議会》

東京都中央区入船1-9-12 河川環境管理財団内

TEL.03-3297-2608 FAX.03-3297-2609

<http://www.rac.gr.jp/>

(子ども水辺サポートセンター内)